

教員をめざす新入生の皆さんへ

人文学部ドイツ語学科

ドイツ語学科で教員免許状を取得して中学校・高校の教員になるには、注意すべきことが多くあります。教員になりたい人、教員免許を取りたい人は、必ずこの文書に目を通してください。

1. 教職課程について

ドイツ語学科で取得できるのは、基本的には「ドイツ語」(中学校・高等学校)の免許です。しかし、残念ながら「ドイツ語」の免許だけで教員として就職できる可能性は、ほとんどないのが実情です。一方で、教職課程を履修するには、授業料のほかに受講料3万6千円を納入せねばならない(初年度に一括)など、経済的な負担もかかります。また、教員志望者に求められるものは年々厳しくなっており、4年次の教育実習は中途半端な気持ちで臨むと現場で迷惑になってしまいます。教育実習の時期が就職活動と重なることから、実習に臨むには「是が非でも先生になりたい」という強い意志を持っていることが必要です。以上のことから、「資格を取れるなら取っておこう」くらいの気持ちで教職課程を履修することは決してお勧めできません。

2. 他学科聴講とは

では、ドイツ語学科を卒業して先生になれないかという、そうではありません。ドイツ語学科の学生が「ドイツ語」の免許にプラスして「英語」の免許を取れるようにするために、「他学科聴講」という制度が用意されています(「英語」の免許だけを取得することは認められていません)。これは、一定以上の学業成績を収めていることを条件に、教職に関連する英語学科科目を履修することができるというものです(英語学科科目を履修できるのは2年次以降です)。

この他学科聴講の資格を得るためにクリアしなくてはならない成績の条件については、ドイツ語学科作成の「新入生履修登録の手引き」を参照してください。GPA3.0以上を満たすには、およそ「履修するすべての科目で80点以上の成績を収める必要がある」と思ってください。GPA2.7以上(3.0未満)の場合は他の条件をあわせて満たすことが必要です。「プレイスメント・テスト」は「フレッシュマン・イングリッシュ」を履修していれば必然的に受験することになりますが、TOEICは学内でも頻繁に実施されるので、他学科聴講を希望する人は是非受験すべきでしょう。他学科聴講の基準を満たすことは、学生としてやるべきことをきっちりやっていたら決して不可能ではありません。ただし、1科目でも不合格になったり試験を放棄したりすると致命傷になることがあります。例年、教職課程を始めた学生のほとんどが他学科聴講を断念し、教職課程をやめてしまっているのが実情です。

成績の基準にも増して重要なのは、ドイツ語に加えて英語の先生になるための勉強をするのですから、人の2倍以上の努力をせねばならないということです。通常の教職課程の単位をそろえるだけでも相当の負担になりますが、これに加えて英語学科の科目を合計13コマ分(2年次以降、毎年度他学科聴講の資格が得られた場合は3年間で)履修せねばなりません。しかし、過去には必要なすべての科目を履修し、「英語」の免許を手にした先輩もいます。ドイツ語を専門的に学んだうえで英語の教員になるというのは、ものすごく価値のあることです。先生になりたいと思っている皆さん、チャレンジするかどうか、よく考えてみてください。

教職課程を始めるかどうかの決断が難しい場合は、2年次から始めるという手もあります。ただし、1年次に履修しなかった科目の単位を2年次以降に修得することになるので、その分だけ厳しくなることは承知しておいてください。また、「日本国憲法」や「コンピュータ入門」の単位は必ず1年次に修得してください。

3. その他

教職課程の履修は非常に複雑です。詳細は、ドイツ語学科作成の「新入生履修登録の手引き」に加えて、FUポータル掲載の「Web学修ガイド(教職課程)」をよく読んで確認してください。質問や相談があれば、下記担当者まで連絡してください。

※教職課程科目は履修しても卒業単位に算入されません。教職課程を本当に履修する人以外は登録しないようにしてください。なお、教職課程科目の単位は、1年間に登録できる制限単位数にも含まれません。

※日本語教員課程は、教職課程とは関係ありません。

担当者：片岡 (kataoka06@adm.fukuoka-u.ac.jp)